

令和2年度病虫害発生予察情報 予報第7号（9月）

令和2年9月15日
発表：福島県病虫害防除所

1 果樹

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全域	－	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった（±）。	
	褐斑病	全域	－	多い	新梢葉での発生ほ場割合は平年より高く、発病葉率の高いほ場も見られた（+）。	晩生種で発生が多い場合には、特別散布を実施する。
	炭疽病	全域	－	平年並	果実での発生ほ場割合は平年並であった（±）。	罹病果は二次伝染源となるため、摘除し園外に持ち出すなど適切に処分する。
	ハマキムシ類	全域	－	平年並	新梢での被害発生ほ場割合は平年並であった（±）。	
モモ	せん孔細菌病	全域	－	多い	新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや高く、発病葉率のかなり高いほ場も多く見られた（+）。	秋期防除を徹底するとともに、発生の多い園地では次年度に向けて、防風ネットの設置などを検討する。 （注意報第7号参照）
	ハマキムシ類	全域	－	平年並	新梢での被害発生ほ場割合は平年並であった（±）。	
ナシ	黒星病	全域	－	多い	新梢葉での発生ほ場割合は平年より高かった（+）。	秋期防除や落葉処理等を徹底して、病原菌の越冬密度低下を図る。 （注意報第8号参照）
	ハマキムシ類	全域	－	平年並	新梢、果実ともに被害発生ほ場割合は平年並であった（±）。	

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。